更新:2024年10月

# Diabetes Cureに向けた $\beta$ 細胞新生の効率化および低侵襲化(2021年度 $\sim)$

研究代表者 宮塚 健 北里大学医学部 内分泌代謝内科学 主任教授

#### 研究のゴール

## 1型糖尿病の根治

## 研究の特徴

1 型糖尿病患者の膵島ではインスリンをつくる $\beta$ 細胞の数が著しく減少しています。一方、同じく膵島にある $\alpha$ 細胞(=グルカゴン(血糖値を上げる作用のある膵臓内のホルモン)産生細胞)の数は保持されています。 $\alpha$ 細胞の特性を変えながらインスリンをつくる $\beta$ 細胞へと変貌させることにより、1 型糖尿病の根治を目指します。

## **研究概要**

マウスを用いたこれまでの研究で、 $\alpha$ 細胞に転写因子 Pdx1( $\beta$ 細胞分化に必須の遺伝子)を導入することにより、 $\alpha$ 細胞から $\beta$ 細胞をつくることに成功しましたが、その数は十分ではありませんでした。本プロジェクトでは、低分子化合物を用いて $\alpha$ 細胞を $\beta$ 細胞へ変化させながら、効率的な $\beta$ 細胞作製法を開発します。

マウスにおいてはさまざまな遺伝子操作が可能ですが、1 型糖尿病の根治を実現するためには安全性の高い方法を確立する必要があります。今回はアデノ随伴ウイルス(AAV)を用いて遺伝子導入を行います。AAV は安全性の高い "遺伝子の運び屋"として注目されており、糖尿病以外の疾患に対する遺伝子治療においても利用されています。マウスにおいて、AAV を用いて遺伝子導入し、簡便で、効率的、かつ安全性の高い手法で $\alpha$ 細胞から $\beta$ 細胞をつくることができれば、1 型糖尿病患者の根治を可能にする新たな治療法開発に繋がります。

## 

【図】 膵 $\beta$ 細胞再生医療の実現に向けて糖尿病患者の膵臓では、インスリン産生細胞= $\beta$ 細胞の数が減少~廃絶している。失われた $\beta$ 細胞を補充するため、 $\beta$ 細胞以外の細胞から $\beta$ 細胞に似た細胞を作り、糖尿病の根治を目指す $\beta$ 細胞再生医療が注目されている。本研究では生体内( $in\ vivo$ )でグルカゴン産生細胞= $\alpha$ 細胞から $\beta$ 細胞への分化誘導を目指す。

脱分化:β細胞が未熟な状態に変化すること 再分化:再びβ細胞に戻ること

#### ▶ これまでの研究結果・成果

転写因子 Pdx1  $\epsilon$   $\alpha$  細胞に導入するための遺伝子改変マウスを作製し、 $\alpha$  細胞から  $\beta$  細胞をつくることに成功しました。このマウスの  $\alpha$  細胞の転写因子 Stat3 (様々な細胞の分化を制御する遺伝子) のはたらきを抑えると  $\beta$  細胞新生効率( $\alpha$  細胞から  $\beta$  細胞へ変化した割合)が上昇しました。

 $\beta$ 細胞死を誘導した糖尿病マウスの $\alpha$ 細胞に Pdx1 を発現させ、さらにグルカゴン受容体拮抗薬(グルカゴンの機能を抑える薬)を投与すると、 $\beta$ 細胞新生効率が著しく上昇し、糖尿病マウスの高血糖を是正することに成功しました。 またインスリンを分泌する機能も回復していました。 さらに安全な再生医療実現に向けて、AAV を用いて Pdx1 を導入すると、 $\alpha$ 細胞の一部がインスリンをつくるようになりました。

## 現在の状況

ヒトやマウスの $\alpha$ 細胞に複数の遺伝子を導入すると $\beta$ 細胞への分化を誘導できることが分かってきましたが、 $\beta$ 細胞新生効率は高くありませんでした。

また複数の遺伝子を導入するという煩雑な操作を必要としており、それらの課題に対して本研究ではたった 1 つの転写因子 Pdx1 を導入するだけで、高い効率で $\beta$ 細胞を誘導することに成功しています。

さらに $\alpha$ 細胞からつくられた $\beta$ 細胞が患者本人のリンパ球(白血球の一種で免疫にかかわる細胞)により再び破壊される可能性があるため、それを回避する方法を開発する必要があります。我々はそのような研究にも着手しています。

## この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

1型糖尿病患者の膵臓に内在する $\alpha$ 細胞を標的として $\beta$ 細胞をつくることができれば、ドナーからの移植を必要としないため、簡便であり、かつ医療費を低く抑えることも期待できます。また移植された膵細胞に対する免疫拒絶反応のリスクもありません。

## 患者・家族、寄付者へのメッセージ

私たちのプロジェクトをご支援いただき誠にありがとうございます。  $\beta$  細胞 再生医療を早期に 1 型糖尿病患者にお届けできるよう、一丸となって研究に 邁進いたします。

#### コードマップ

#### 、現在の進捗率 // 約28%

**2018年** α 細胞から β 細胞への分化 を誘導するマウスの作製

**2022年** α 細胞からより多くの β 細胞 をつくる方法を開発

2023年 AAVを用いた簡便かつ安全性 の高い遺伝子導入法の開始

**2024年** 糖尿病モデルマウス用いた α細胞から変化したβ細胞の 機能評価

現在 α 細胞由来の β 細胞と、元々存在する β 細胞との比較

2028年 β細胞新生効率のさらなる

2030年 AAVを用いた臨床試験

**2035年** AAVを用いた β 細胞再生医療 の実用化

2038年 AAVを用いた遺伝子導入後の 長期的安全性の検証

2040年 1型糖尿病根治

- 宮塚 健 先生プロフィール 【 ① 座右の銘 ② 趣味 ❸ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】
  - ●人間万事塞翁が馬 ❷自転車 ❸免疫組織染色 ❹留学時代のボス ❺蕎麦